

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (幼) (2 単位)	3. 科目番号	SJMP1141
2. 授業担当教員	中川 画太		
4. 授業形態	実技、講義	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作科を指導する上に於いて、最も基本となる内容である		
7. 講義概要	実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。 制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。		
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験する。 2. 様々な作品に触れ、子どもたちの生き生きとした表現に共感できる感性を養う。 3. 子どもの発達段階における造形の特徴を理解し、場面に応じた援助の在り方について学ぶ。 4. 素材体験や題材研究を行い、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、保育者・指導者の立場から考察する。		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	・基本的に、毎時の実習において制作する作品を提出課題とする。 ・上記以外に、グループワークによるプレゼンテーションを行い、グループに於いて求められることと、それに如何に対応していくかなどをレポートして提出する。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	教科書、参考書は、授業の進行に伴ってレジュメを配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。 制作道具・材料を自ら揃えることも学習の重要な要素なので、オリエンテーションや前週に支持された内容に沿って、各自、確実に準備して授業に望むこと。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考える力がついたか。(学習目標 1・2) 2. 子どもの造形表現の特徴に関する基礎的な知識が身につけられたか。(学習目標 3・4) 3. 子どもの造形活動を支える上で不可欠な基礎的造形力、技能が身につけられたか。(学習目標 5) ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加 総合点の 20% 2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の 30% 3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等) 総合点の 30% 4. 課題 (作品発表、レポート等) 総合点の 20%		
12. 受講生へのメッセージ	物を作る喜びや楽しさを体験する講座ではありますが、これまでに小学校・中学校・高校で児童や生徒として体験してきた「図画工作」や「美術」の授業とは異なり、指導者となるための授業です。 1. 良好な体調で、積極的に臨み、制作に集中する。 2. 指示された用具や素材を、必ず用意する。 3. 制作した作品は、今後の貴重な資料となるものなので、必ず大切にファイリングする。 以上 3 点、厳守で、一つ一つの体験を一過性のものでせず、より多くを身に付けて行けるよう意識を強くして臨みましょう。		
13. オフィスアワー	授業前後の休憩時間。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	講義概要。 (自らが児童生徒として受講した「図画工作」等に思いを馳せると共に、指導者として「図画工作」に携わる自覚を強く持つ) 【鉛筆の使い方を通して、用具使用への意識を新たにする】	事前学習	シラバスより、講義概要を捉えておく。
		事後学習	本講義を受講するに当たり、心構え等、重要なポイントを整理し、必要となる用具などをそろえる準備をする。
第 2 回	オートマティズムによる描画実習 I (幼児の表現から、より多くを受け取れる能力を身につける I (気づきのポイントを体験する)) 【ボカシ、ドリッピングなど絵の具を使った表現】	事前学習	必要な用具と材料を準備する。その際、どこでどのように手に入れられるか、値段、他にどのような類似したものがあるかなどを、チェックする。
		事後学習	返却された前回の作品を、しっかりファイリングする。【今後、全作品が同様である】第 2 回について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果を、整理する。
第 3 回	オートマティズムによる描画実習 II (幼児の表現から、より多くを受け取れる能力を身につける II (工夫とその結果から感じる体験)) 【スクラッチ】	事前学習	第 2 回同様、必要な用具・材料の準備と、それに関わるもののチェック。
		事後学習	返却された第 2 回の作品について、反省し求められたことについて考察する。第 3 回について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果を、整理する。
第 4 回	オートマティズムによる描画実習 III (幼児の表現から、より多くを受け取れる能力を身に	事前学習	第 3 回同様、必要な用具・材料の準備と、それに関わるもののチェック。

	つけるⅢ (絵の具遣いの応用から、より多くを受け取る) 【デカルコマニー】	事後学習	返却された第3回の作品について、反省し求められたことについて考察する。第4回について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果を、整理する。
第5回	粘土等、可塑的素材による立体造形Ⅰ (立体造形の入り口として、素材感覚を養う) 【“4本脚の動物”をテーマに、制作】	事前学習	多種類の紙粘土等が置いてある場所(店舗)に行き、粘土(造形材料)について調べる。
		事後学習	返却された第4回の作品について、反省し求められたことについて考察する。立体造形の平面との違いを整理する。
第6回	粘土等、可塑的素材による立体造形Ⅱ (立体造形に欠かせない「素材」に対する意識を高める) 【身近な素材を使った立体造形Ⅰ】	事前学習	必要な材料の準備と、それに関わることのチェック。
		事後学習	身近な材料について、身の回りをチェックする。
第7回	紙工作Ⅰ (紙を使う立体造形の基本として、物体の立体的な把握に焦点を当て、平板な紙から、立体を起こす実践によって、平面との違いを実感する) 【お面制作】	事前学習	紙工作に、どのような材料が使えるかを考えて、準備する。
		事後学習	紙による立体造形について、自分の試みた方法とその結果、他の学生が試みた方法とその結果、そして、他にどのような方法があるか、配布物や教科書を参考にして整理する。
第8回	紙工作Ⅱ (紙の特性から、立体を起こす上で必要とされる基本的な理屈を体験し、幼児の指導に求められる視点や、知識を体得する) 【幾何学的な形体でより高さのある作品の制作】	事前学習	前回の体験をふまえ、紙工作に有用な用具や適切と思われる材料を準備する。
		事後学習	紙の特性や、立体造形の材料としての可能性などを、配布物や教科書を参考にして整理する。
第9回	紙工作Ⅲ (立体の集大成として、各種素材の可能性を探索し、幼児の指導上必要とされる、立体造形に於ける応用力を身につける) 【身近な素材を使った立体造形Ⅱ、楽器制作】	事前学習	身近にある紙や接着剤など、どんなものが“工作”の材料になるか考えながら、準備する。
		事後学習	制作した体験をふまえ、子どもへの指導上の留意点を、配布物や教科書を参考にして整理する。
第10回	見立て活動の聞き取り実践 【象徴期、前図式期から図式期の幼児の描画表現に適切に寄り添える技能を身につけるための実践】	事前学習	第4回までの平面作品を中心に、これまでに制作してきた自分の作品に発見したことを思い返し、新たに発見することはないか、一つ一つ、見返してみる。
		事後学習	コミュニケーションの方法や、共感できるための姿勢など、実習で体験したことを整理し、気付いたことを、まとめる。
第11回	動物の形態研究 (幼児へ図像を使った発信をするための基本技能を習得するための実践) 【ペーパーサートの人形づくりに向けた準備】	事前学習	動物の形態が判りやすい資料を探す。
		事後学習	形態の要点を捉えて単純化する際に、自分が目を向けた部分の他に、目を向ける部分はなかったかなど、考察してみる。
第12回	ペーパーサート制作Ⅰ (図像発信や立体造形の応用を、グループワークで幼児へプレゼンテーションする作品へと具体化するための準備) 【ペーパーサート人形制作】	事前学習	紙工作の体験をベースにした、材料準備。
		事後学習	“観客からの視点”で、自分の作品を見てみる。
第13回	ペーパーサート制作Ⅱ (幼児を対象としたペーパーサートを作成する。シナリオ制作。大道具、小道具制作) 【劇制作：グループワーク】	事前学習	導入から終幕まで、見せるために必要なことを考え、整理しておく。
		事後学習	グループ内での役割分担に沿って、必要な準備をする。
第14回	ペーパーサート制作Ⅲ (幼児を対象としたペーパーサートを作成する。演出、音響効果などを考える) 【劇制作：グループワーク】	事前学習	前回の反省点や、新たな提案があれば、グループ全員に伝えられるよう、整理して準備しておく。
		事後学習	グループ内での役割分担にそった最終準備をする。チームワークを高めるためのコミュニケーションについても、考察する。
第15回	ペーパーサート制作Ⅳ (自らの発表だけでなく、他グループの結果から、良い所に焦点を当てて学ぶことで、幼児へのより多くの視点を持った指導者となれる資質を養う) 【劇発表：グループワーク、鑑賞、講評】	事前学習	演出、シナリオ読み合わせ、セリフの声だし、音響、舞台道具等、チェックポイントや、新たな提案があれば、グループ全員に伝えられるよう、整理して準備しておく。
		事後学習	自分のグループについてだけでなく、他のグループの発表から得られた事を、しっかりと受けとめ、整理してまとめる。